

ふれあい通信

涼風号



特集

『愛＝共感 ありのままを受け止めて』

ふれあいじんけんフォーラム（塩谷南那須地区人権教育指導者一般研修）

令和元（2019）年6月11日（火） 那珂川町小川総合福祉センター



今年度のふれあいじんけんフォーラムは、魂のヴォーカリスト・杉山裕太郎さんを迎え、初の試みである「人権講演ライブ」を行いました。
杉山さん自身のエピソードと歌を織り交ぜながらのライブは、聴く人の中に感動を湧き上がらせていました。

「歌」と「エピソード」で紡ぐ
渾身の人権講演ライブ

両親から過度な期待を受けて育った杉山さんは、中学を境に非行に走りまです。その果てには、薬物乱用という最悪の結果が待っていました。
もうこれ以上乱用状態が続けば命さえ危ういというとき、父親との壮絶なドラマが展開されます。そのドラマの本質を一言で表せば「共感」。
「頑張れよ」「もっとできるよ」ではなく「つかってあげたんだね」「分めんね…」



共感 (きょうかん)

共感 (きょうかん、英語: empathy) は、他者と喜怒哀楽の感情を共有することを指す。もしくはその感情のこと。例えば友人がづらい表情をしている時、相手が「づらい思いをしているのだ」ということが分かるだけでなく、自分もつらい感情を持つのがこれである。通常は、人間に本能的に持っているものである。



これは様々な教育活動の中でも通じることでしょいか。杉山さんの作品に「ありのままを受け止めて」という曲があり、子どもの姿を、ありのまま受け止めることからはじめると感じます。ぜひ杉山さんの曲を聴いていただきたいです。

参加者の声

- 小学生の作文に感動しました。このままみずみずしい心で成長してほしいと思いました。
- 杉山さんのライブ、とても良かったです。体験したからこそ語れる言葉や歌が胸に響きました。
- 実体験によるお話と歌にゾーンとききました。涙がこぼれて止まりませんでした。私も強く生きていこうと思います。

「やる気スイッチ 君のはどこにあるんだろう～♪」

塩谷南那須地区PTA指導者研修

令和元（2019）年7月25日（木） 高根沢町町民ホールほか

「令和」初めてのPTA指導者研修は、あのCMでおなじみの「やる気スイッチグループ」のシニアコンサルタント・佐藤広康氏を講師にお迎えし、「子どもの可能性を引き出す『やる気スイッチ』の入れ方」という演題で御講話をいただきました。やる気スイッチは個性であり、それぞれ違うこと。努力タイプ、結果タイプ、こだわりタイプ、3つのタイプがあり、子どものタイプに合わせて承認すること。子どもの「大切」を大切にすること・・・等、子どものやる気スイッチを引き出すための親（大人）のかかわり方について具体例を交えてお話いただきました。



また、最後には、人生を「スーパーマリオブラザーズのゲームに例え、「何の障害（苦労）もない人生は充実しない。人生には障害（苦労）が必要であり、障害を乗り越えられる人生を送って欲しい。大切なのは、自分をどれだけ信じられるか、大人がどれだけ信じてあげるか。子どもが何を大切にしているかを聞き、それを共に大切にするサポートを！」と、熱いメッセージをいただきました。佐藤先生のお話を聞いて、ご自身のやる気スイッチが多かったのではないかと思えます。

Column

地域学校協働本部とは？

学校は教育目標を達成するために、授業等を通して様々な教育活動を行います。少子化や価値の多様化、情報化などの社会の激しい変化と相まって、学校単独でそれを達成することが難しい状況となってきています。

そこで、地域住民や団体等が緩やかなネットワークを形成し、学校のパートナーや子どもの教育に関わる当事者として協働活動を推進していくことが重要になってきています。このように、地域と学校が協働する枠組みとなるものが、**地域学校協働本部**になります。現在、塩谷南那須地区においては、さくら市、塩谷町、高根沢町、那珂川町に本部が設置されています。

本部設置の形態は市町様々です。

さくら市は、氏家小と喜連川小それぞれに本部が設置されています。ほかの学校に本部は設置されていませんが、コーディネーターを配置し、学校と地域をつないでいます。

高根沢町は、全ての小中学校に本部を設置しています。コーディネーターも2名以上の複数配置を原則としているのも特徴です。さらに、学校運営協議会も全校に設置し、高根沢版コミスク「みんなの学校」がスタートしました。

塩谷町は行政（生涯学習課）が本部となり、全ての学校とのつながりを作っています。

那珂川町は昨年度、馬頭東小に本部を設置し、協働活動の推進を図っています。

今後、ますます重要となる地域学校協働本部にぜひ注目してください！

